

浜町から 風の便り XVI

2020 (令和3) . 1 . 15.
船橋市浜町 辻 秀幸

祝成人

令和3年、船橋市の成人式はオンラインで行ったそうです。お身内に成人式を迎える方はおられますか。その方を祝してめでたい鶴の折り方のトリセツです。

祝成人・千羽鶴その一

高校野球のダッグアウトにぶら下げられていることがある千羽鶴を作ってみようかと思った。少しは慰めになるのかしらと。

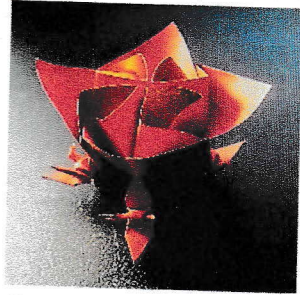
作り方にうまい工夫があるかもしれない、と本屋で探した。折り紙の本は多いが、千羽鶴のつくり方の出ている本は見つからなかった。その代り、ある本の裏表紙の「鶴の華」と題した写真が目についた。1枚の折り紙の中に幾つかの小さい鶴を折り、全体を花のようにまとめた創作折り紙であった。(『鶴を折る』ブティック社 1993 裏表紙掲載 市橋玄牛作)

折り紙自体に関心はないが、この写真には興味をもった。どうやったらこういう形になるのだろうか。

見て、考えていると仕組みがわかった気がした。

出来た。写真と似ているではないか。面白くなって、めったやたらとひねくりまわした。小さい鶴をぶら下げた花もどきが幾つも出来上がった。気がついて、やみくもにひねくりまわすのではなく、鶴の配置、大きさなどを整理して一つずつためた。

その成果を「鶴が花」と題した本にまとめた。名作の一つをご紹介します。



「上写真がもし万一、折り紙創作をしている方の目に触れましたら：辻の創作です。創作時点で公表も似寄りの創作折り紙の確認もしていませんので、ご自分の創作だという主張に、私から異議を唱える気はありません。創作の年月日と折り方図が記録してありますので確認のお問い合わせには応じられます。」

皆さん、興味なさそうなので次のお話に移ろう。でもやっぱり鶴。

祝成人・千羽鶴その二

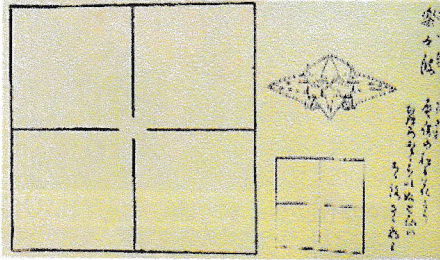
「その一」を夢中になって楽しんでいる時に、『秘傳千羽鶴折形解説＜復刻と解説＞』（日本折紙協会編 1991/5/1. 日本折紙協会発行）という箱入りの本が目にとまった。神の啓示か悪女の誘惑か、購入。ヒコーキの本でもあきらめるほどの値段だが、その頃は懐にも気分にも余裕があった。

こちらの千羽鶴は、ぶら下げるのとは別の、昔からの本家千羽鶴。一枚の和紙で2羽から千羽（この本での最大は97羽）まで折り出すというもの。

その中から、市販の折り紙で作れる一番簡単なものをむりやり紹介しまおう。

折り紙を4等分して4つの鶴を折るだけ。ではトリセツ。

伝統折りの鶴（普通の折り方）を折ったことがない方は隣の方に教わってください。簡単です。外国人と仲良くしようという時のダンシとして使えるので、覚えておいて損はしないと思いますヨ。



左が折り方図（設計図） 右は原著（復刻）の該当頁「楽々波（さざなみ）」と名前が付けてある

和紙折り紙：折り紙を揃えている店ならたいてい置いてある。両面着色は避けよう。
ハサミ：ナイフでも可。

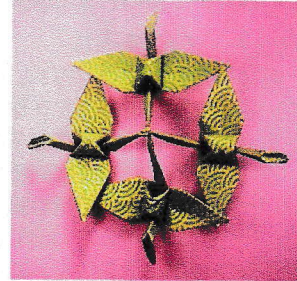
物指・鉛筆：なくても何とかなる。
折り方：折り紙を縦と横それぞれに2等分する線を引く。無ければ折り目をつければOK。折り紙を4等分するわけ。線（折り目）を切る。中央5ミリ程度を切り残す。この切り残し部分が4つの鶴を連結する。

鶴を折る：4等分した四角一つずつ折る。面倒だが、鶴を折りながら紙全体を素直に従わせること。折っている鶴だけについてひっくり返し、向き変えしたりしているとつなぎ目に負担がかかる。和紙が丈夫だとはいえ薄い紙であるからして、邪険に扱っているとプチ切れてしまう。めんどくさくても優しくね。それと、4つ全部鶴になるまで羽を豊んでおくこと。優しくやさしくね。

つなぎ目：クチバシ（尾）になるか羽の先になるか、気にしない。もし興味が湧いてもう一つ折ってみようという時に気にする。折っている途中でクチバシか羽かわかる過程があるので、その時に少し悩んでください。

仕上げ：鶴4つ折り上がったら、羽・胴体を広げ机の上に置いて整え、完成の喜びの一献を味わい、ほくそ笑む。

下写真は尾でつなげた状態。



『秘傳千羽鶴
折形』の
「楽々波」

折り紙の裏面を表に出す折り方も可能なので、一つおきに別色の鶴とすることができ。その時は両面着色の折り紙を使ってみよう。用意する時に両面着色を避けると言ったのは、紙が厚く硬めになるから。折り紙に慣れているなら始めから厚さに関係なくお気に入りの用紙を利用してなんら差支えない。

ところで、伝統折りの鶴は、いつ頃から折られているのでしょうか。先に紹介した本によると、はっきりしない、そうです。本の挿し絵にそれと確認できる絵が現われるのは享保2年（1717）や享保13年出版の絵入り本だそうです。江戸中期には人々が折って楽しんでいたということのようです。

ぶら下げる千羽鶴のことはすっかり忘れていました。

トリセツ

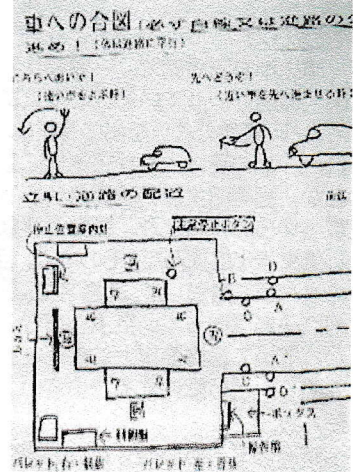
パソコンを何台か買い替えたが、取説(とりせつ。取扱説明書。マニュアル)はなかった。なぜ説明書が付いてないのか不思議である。その前の、ワープロの時は付いていた。平成19年(2008)の新聞記事から推察すると当時の国産パソコンには付いていたらしい。その頃、パソコンに限らず、付属してくる説明書の分かりにくさが話題となっていた。

作った側の人か説明書を書いていたことが原因だろうということらしかった。仕組みや扱いに慣れている専門家が書くので、シロウトには丸で通じない、ということが記事に書かれている。

私が今使っているノート型パソコンを購入した時、電源を入れることは出来たが、まずインターネットでこれこれをあれあれして……と画面に出てお手上げ。インターネットはやっていない。店に持って行ってお姉さんに解決してもらわねばならなかった。それからが大変。説明書がないので、似寄りの機材についての市販の本を探して試行錯誤。写真をワープロ機能(このパソコン上ではワードという機能)で使おうとして手古摺った。インポートしてそれをああしてこうしてということだが、市販の本はかなり親切に書かれてはいたが、すんなりとはいかなかった。そもそも説明書がなぜ付いていないのか。出版社と癒着しているのではないか。

マニュアル人間という言葉があったと記憶する。町にコンビニが現れ、接客とか販売

するとかいうことを初めて経験する若者に、マニュアルが用意された。仲間内でないお客様に、一定の言動を取れば、失礼がなく、好感をもたれるだろうというわけである。今でも、コンビニでは「いらっしゃいませこんにちは」と声をかけられことがある。これがマニュアルであるらしい。よく利用するスーパーでは、新人さんは両手をおへそのあたりに組んで目を見てありがとうございますと言う。レジスターの扱いと同時に先輩から教わっている姿に時々出くわす。ところが少し慣れてくると金銭の処理にのみ集中して、手は組まない目をあわせないありがとうございますとも言わなくなる。別のスーパーで、ありがとうございますと言ったら「こちらこそありがとうございます」と返されて驚いた。この店のマニュアルにあるのだろうか。即座



「シティホテル・アルファ」の立体駐車場の操作マニュアルのイラストの一部。手書き。次ページ「専門バカ」参照。「シティ・ホテル『立体駐車場 入・出庫手順』」1990平成2頃 から

